

東京 IPO 特別コラム

2021年6月22日 Vol.179

6月IPOラッシュの始まり

令和3年もはや折り返し地点に立つ今日この頃です。東京オリンピック開催まで1か月ほどとなる中、日本の株式相場は米国での1年前倒しのテーパリング報道から波乱の展開。米国市場がさほどまだ極端にネガティブな動きには至っていない中で日銀頼みの日本株は5月半ばのボトムに対して2番底形成の動きを探るやや臆病な展開がみられました。先般1万円台乗せを果たしたトヨタ株が利益確定売りをこなして比較的堅調な推移を見せる中で過去活躍してきた多くの銘柄は調整の動き。需給悪の中で直近のIPOも上値が重いという印象です。

こうした中でいよいよ 本日から月末まで6月IPOのラッシュが始まりました。6月IPO銘柄の中で29日にIPOを予定していたリヴァンプ(4070)の上場が取り消され6月全体では22の銘柄になりました。このうち22日が3銘柄、23日が3銘柄、24日が4銘柄、25日2銘柄、28日1銘柄、29日3銘柄、30日1銘柄の合計17銘柄が公開予定。既に7月も7銘柄のIPOが発表されており、消化難の状況に陥るのではないかと懸念がもたれましたが、本日IPOの3銘柄にはそうした動きが顕著に表れています。本日は給与計算業務のペイロール(4489)が、公開価格1380円に対して初値は1290円(▲6.5%)となり公開価格割れ。その後の株価も頭重い展開となっています。また創薬ベンチャーのベルセウスプロテオミクス(4882)については公開価格870円に対して初値は1005円(+15.5%)と比較的堅調な始まりとなったのですが、その後は公開価格に急接近。フォトウェディング、アニバーサリーフォトサービスのデコルテ・ホールディングス(7372)は公開価格1720円に対して初値は1582円(▲8.0%)となり、これも公開価格割れ。その後も安値1400円まで売られる展開でIPOラッシュによる需給悪化がそれぞれの株価に表面化しています。市場全体の需給悪化、相場の調整局面の中で生じた動きではありますが、IPO銘柄は上場前に申し込んで当たれば初値で大きく利益が得られるといったこれまでの特徴が崩れ出したと言う点ではかなり注意すべきところかと思われます。今後もこうした展開となる銘柄が登場してIPO市場に一過性ではないリスクが生じないようにする必要がありそうです。初値が公開価格を割れる動きは昨年のコロナショックの際に起きたのですが、今回はその時のようなショック安後の動きではない点で注意が必要です。

ただ細かく見ていくと放出株が多過ぎた銘柄ほど需給悪となりうるし、足下の業績や成長予測に不確実な点を感じられれば投資家はネガティブに評価しがちだという点も注目されます。これまでのようなテーマ性に沿った高評価のパターンはまだ市場には存在していて、これから登場する銘柄にはそうしたリード役が存在する可能性もありますので6月IPOラッシュの行方を引き続き皆様とともに見守ることにします。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)